

第43回受精着床学会 学術集会

P-69

名古屋, 2025.8.28-29

ノンメディカルな卵子凍結を実施した女性の思いと現状

HORAC グランフロント大阪クリニック

○杉本朱実、森本義晴

#### 【諸言】

近年、女性の加齢による妊娠率の低下が知られるようになり、将来の妊娠に備えノンメディカルな卵子凍結が注目されている。最近では企業の福利厚生や、自治体が費用を助成する動きもある。一方で、凍結保存することは妊娠出産を先延ばしにするのではないかという懸念の声もある。そこで、本研究はノンメディカルな卵子凍結者の現状と、アンケートにより実施者の思いを調査した。

#### 【方法】

2018年から2023年に当院でノンメディカルな卵子凍結を実施した204名を対象に後方視的に調査すると共に、メールアンケート調査を行った。

#### 【結果】

実施者の84%は35歳以上であった。アンケートの回収率は、19.1% (39名) で、卵子凍結を実施した理由は、「キャリアアップの為仕事を優先したかった」が7名 (17.9%)、その7名はみな複数回答で「パートナーがいなかった」と回答した。次に、卵子凍結直後の「満足度」は、年齢問わず85%が「大変満足・満足」で、15%が「どちらでもない」と回答した。現在の満足度については、40~42歳で凍結した女性は「どちらでもない」が46.2%に増加し、「やや不満」が5%であった。理由は「使うことがないかもしれないから」「子どもができれば満足だと思う」などであった。

#### 【考察と課題】

卵子凍結を実施した女性は、将来子どもをもちたいと強く願い、今できる行動として実施したと考えられ、それは安易に妊娠出産を先延ばしにするためではなかった。実施直後の満足度は、85%と非常に高く一先ず安心感を得られたと考えられる。しかし、40~42歳で凍結した女性は数年経過し、パートナーの有無や女性特有の身体の変化など妊娠出産への不確かさや、それぞれの事情、思いが垣間見られた。卵子の凍結年齢は、融解後の妊娠率に影響することから、卵子凍結を希望する女性が若いうちから正確な情報が得られるよう適切な情報発信のあり方を検討することが今後の課題である。

